

## テニス選手のメディカルチェック

○奥平 修三<sup>1),2)</sup>, 橋本 祐介<sup>3)</sup>, 中田 研<sup>1),4)</sup>

<sup>1)</sup> 日本テニス協会 強化本部 TSS メディカル

<sup>2)</sup> 京都けいさつ病院 整形外科 (スポーツ)

<sup>3)</sup> 大阪市立大学大学院医学研究科 整形外科

<sup>4)</sup> 大阪大学大学院医学系研究科 器官制御外科学 (整形外科) スポーツクリニック

競技テニスは最近の15年で、1ポイントに要する時間は12.2秒から5.99秒に、また試合時間は5時間から1時間30分に短縮された。同時に、最長試合時間は2010年に更新され(11時間5分)、スピード・筋力・持久力のどれが必要とされる高負荷なスポーツとなってきた。年間を通じて世界各国を転戦する選手にとって、競技レベルを落とす原因となる傷害・障害を未然に防ぎレベルダウンしないことがトップレベルで戦うための必要条件と考えられる。

日本テニス協会 TSS メディカル (旧: 日本テニス協会医事委員会) は2003年より日本男子テニス代表選手・代表候補選手に対するメディカルサポートを開始し、2006年より年2~3回の定期的なメディカルチェック/サポート体制を確立してきた。これまでに整形外科的メディカルチェック(問診, タイトネステスト, 関節可動域(以下ROM)測定(角度計による実測)(12項目))により日本テニス男子代表・代表候補選手の身体特性は、1) 左右非対称性は主に上肢(肩, 肘, 前腕, 手関節)に認めるが下肢には認められない, 2) 大腿四頭筋タイトネスおよびハムストリングスタイトネスを認めることがわかってきた。選手/コーチへのフィードバック後の身体特性の改善効果を含め、テニス選手のメディカルチェックの今後の展望について述べる。